

著書の時に若干御手伝をしたことから民族問題などを話し合ったことである。特に印象に深いのは研究所の疎開で松本で共に生活をするようになった時で、岡崎夫妻、それに現人口移動部長の岡崎陽一氏が学生であったが、食料が乏しい時にメリケン粉で焼いたものを二階の私の室まで持ってきて食べようといったことなど今でも記憶に残っている。

釣りが好きでよく東京湾で釣った魚などを持ってきてくれたものだが、酒を呑まない先生であったが酒の話には詳しく、また原始動物の話も好きでよく所長室で会談をしたものである。

非常に丈夫な御人であったので90歳以上は生きられると思ったがふとした骨折で亡くなられたことは残念であった。思い出の記を書いて哀悼の辞にかえたいと思う。  
(篠崎信男)

## 故岡崎文規元所長の略歴と業績

### 略 歴

明治28年2月19日 大阪府三島郡茨木町において出生  
大正10年3月 京都帝国大学経済学部卒業  
大正11年4月 京都帝国大学助手  
大正12年4月 京都帝国大学経済学部講師  
大正15年3月 彦根高等商業学校教授  
昭和11年12月 経済学博士(京都帝国大学授与)  
昭和14年9月 人口問題研究所研究官  
昭和16年5月 人口問題研究所調査部長  
昭和17年9月 人口問題研究所企画部長  
昭和17年11月 厚生省研究所人口民族部長  
昭和21年5月 人口問題研究所長  
昭和34年4月 〃 を辞す  
昭和34年4月 日本社会事業大学教授  
昭和36年4月 龍谷大学経済学部教授  
昭和41年4月 勲二等瑞宝章を受く  
昭和50年3月 龍谷大学経済学部を辞す  
昭和54年5月 心不全のため死去

### 〔審議会関係〕

矯正科学審議会委員(昭24.2)、人口問題審議会委員(昭24.6)、中央船員職業安定審議会委員(昭24.10)、厚生科学研究助成審議会委員(昭26.9)、栄養審議会委員(昭28.4)、人口問題審議会専門委員(昭28.12)、人口問題審議会専門委員(昭34.6)、人口問題審議会委員(昭35.7)、人口問題審議会委員(昭37.6)、人口問題審議会委員(昭39.10)、社会保障制度審議会幹事(昭32.8)

### 業 績 目 録

#### 1 『人口問題研究』に掲載のもの

##### 〈論文題目〉

	〈巻号：(発行年月)〉
○婚姻表について	1—1 (1940.4)
○特殊婚姻率算定の基礎としての無配偶人口	1—2 (1940.5)
○長野県諏訪郡A村及びB村の死産に就て	1—6 (1940.9)
○出産力調査結果の概説	1—7 (1940.10)

○婚姻統計概説		1—9 (1940.12)
○初婚者の職業別婚姻年齢		2—4 (1941. 4)
○初婚者の結婚費		2—7 (1941. 7)
○結婚挙式日と婚姻届出日との間隔		2—9 (1941. 9)
○婚姻率の変動		2—9 (1941. 9)
○農家に於ける初婚者の結婚費用		3—3 (1942. 3)
○府県別人口動態の趨勢		3—5 (1942. 5)
○平均結婚年齢の変化		3—7 (1942. 7)
○独逸における乳児保護対策		3—11 (1942.11)
○結婚持続期間より見たる子女数別夫婦の分布		4—7 (1943. 7)
○夫婦関係持続期間と出産力		5—2 (1946. 2)
○都市人口の発展	5—10・11・12	(1948. 4)
○労務需給の研究(その一)	6—1	(1948. 7)
○農耕者の出産力に関する統計的観察	7—2	(1951. 9)
○日本における最近の死産	7—3	(1951.12)
○フランス国立人口問題研究所の概要	7—4	(1952. 3)
○アルフレッド・ソーヴィー氏「経済と人口」	8—1	(1952. 7)
○都市における給料生活者の出産力	8—2	(1952.10)
○一九五〇年の国勢調査の結果に基く日本婦人の出産力	8—2	(1952.10)
○日本の工場工業と工業労働人口	9—3・4	(1954. 3)
○日本における優生政策とその結果について	61	(1955. 8)
○自殺の実証的研究(I)	74	(1958.12)
○自殺の実証的研究(II)	75	(1959. 3)
2 『人口問題研究所年報』に掲載のもの		
○離婚に関する統計的観察		1 (1956.10)
○ソ連の人口事情		2 (1957. 8)
○自殺と他殺の関連性		3 (1958. 8)
○大都市人口の膨脹		5 (1961. 1)
3 『人口問題研究所研究資料』として発表のもの		
○食糧危機と産児制限		2 (1946. 7)
4 その他		
○人口統計研究	大正14年	有斐閣
○統計研究文献	大正14年	〃
○統計的中数值論(訳)	大正15年	〃
○職業統計問題研究	昭和8年	日本評論社
○人口統計における諸問題	昭和9年	立命館出版部
○国勢調査論	昭和10年	東洋出版社
○文化統計研究	昭和11年	叢文閣
○国民生活と国民体位	昭和13年	千倉書房
○戦争と生活	昭和13年	河出書房
○新東亜確立と人口対策	昭和16年	千倉書房
○結婚と人口	昭和16年	〃
○日本人口問題	昭和16年	目黒書店

○統計学要綱（中川友長と共著）	昭和17年	巖松堂
○印度の民族と生活	昭和17年	千倉書房
○民族の悠久性	昭和18年	電通出版部
○平均の理論と応用	昭和19年	第一出版社
○苦悶の人口	昭和21年	銀座書店
○社会統計問題研究	昭和23年	泉文堂
○近代統計思想史	昭和23年	永晃社
○国勢調査論	昭和23年	第一出版社
○統計学通論	昭和23年	明善社
○実用統計講話	昭和24年	同友社
○日本人人口の実証的研究	昭和25年	北隆館
○人口学入門	昭和25年	広文社
○人口（訳）	昭和27年	白水社
○日本人人口図説	昭和28年	東洋経済新報社
○国際移住問題	昭和30年	日本外政学会
○日本人人口の分析	昭和32年	東洋経済新報社
○自殺の国	昭和33年	東洋経済新報社
○人口の生態	昭和34年	全国地方銀行協会
○自殺の社会統計的研究	昭和35年	日本評論社
○犯罪	昭和38年	三一書房
○殺人の研究	昭和38年	日本評論社
○経済統計学入門	昭和39年	三一書房
○少年の犯罪	昭和39年	一粒社
○自殺について	昭和40年	三一書房
○マルサスと人口減退	昭和41年	三一書房
○結婚と家族	昭和43年	古今書院
○自殺論	昭和44年	古今書院